

公開鍵暗号の例: RSA 暗号

Rivest, Shamir, Adleman (1977)

- 大きな素数 p, q を選び、積 $N = pq$ を作る
- N を用いて、公開鍵 e ・ 秘密鍵 d の対を作る
- 暗号化の計算は N と公開鍵 e とから可能
- 復号は秘密鍵 d を用いる
- N と公開鍵 e とから秘密鍵 d を求めるには、 N の素因子分解 $N = pq$ が必要
- しかしそれは困難 (膨大な計算時間が掛かる)

RSA 暗号 (Rivest-Shamir-Adleman)

p, q : 相異なる大きな素数 (実際には 1024 bit 以上)

$N := pq$: RSA 方式の法 (**modulus**)

$m := \text{lcm}(p - 1, q - 1)$

$\text{gcd}(e, m) = 1$ となる整数 e をランダムに選ぶ

$ed \equiv 1 \pmod{m}$ となる整数 d を求める

- (N, e) : **暗号化鍵** (encryption key)
→ **公開鍵** (public key)
- d : **復号鍵** (decryption key)
→ **秘密鍵** (secret key, private key)

RSA 暗号 (Rivest-Shamir-Adleman)

p, q : 相異なる大きな素数

$N = pq$, $m = \text{lcm}(p - 1, q - 1)$, $ed \equiv 1 \pmod{m}$

- (N, e) : 公開鍵 (暗号化鍵)
- d : 秘密鍵 (復号鍵)

平文・暗号文は $0, 1, \dots, N - 1$ に符号化
($\text{mod} N$ で考える)

平文 M の暗号化 : $C = E(M) \equiv M^e \pmod{N}$

暗号文 C の復号 : $M = D(C) \equiv C^d \pmod{N}$

RSA 暗号 (Rivest-Shamir-Adleman)

p, q : 相異なる大きな素数

$$N = pq, \quad m = \text{lcm}(p - 1, q - 1), \quad ed \equiv 1 \pmod{m}$$

平文 M の暗号化 : $C = E(M) \equiv M^e \pmod{N}$

暗号文 C の復号 : $M = D(C) \equiv C^d \pmod{N}$

元に戻るのか ($D(E(M)) = M$ か) ?

→ 以下、暫く板書で

初等整数論の準備

- $(a, b) = 1$ のとき、 $a|bc \implies a|c$
- 特に p : 素数のとき、
 $p|ab \implies (p|a \text{ または } p|b)$
- $(m, n) = 1$ のとき、
 $a \equiv b \pmod{mn}$
 $\iff a \equiv b \pmod{m}, a \equiv b \pmod{n}$

Fermat の小定理

p : 素数のとき、

- $(a, p) = 1$ なる $a \in \mathbb{Z}$ に対し、

$$a^{p-1} \equiv 1 \pmod{p}$$

- 同じことだが、任意の $a \in \mathbb{Z}$ に対し、

$$a^p \equiv a \pmod{p}$$

冪乗の高速計算

p, q : 相異なる大きな素数 (実際には 1024 bit 以上)

$N = pq$, $m = \text{lcm}(p - 1, q - 1)$, $ed \equiv 1 \pmod{m}$

- 平文 M の暗号化 : $C = E(M) \equiv M^e \pmod{N}$
- 暗号文 C の復号 : $M = D(C) \equiv C^d \pmod{N}$

暗号化して復号すると元に戻ることは判った。

しかし、高速に計算できるのか？ (e, d は巨大)

→ 冪乗の高速計算法が必要

RSA 暗号 (Rivest-Shamir-Adleman)

公開鍵 (N, e) から秘密鍵 d が計算できるか？

- N の素因数分解 $N = pq$ を知っていれば容易
- 事実上 N の素因数分解と同程度の困難さ

「困難さ」… 計算時間が掛かる

RSA 暗号の安全性 \iff 素因数分解の困難さ

“計算量的安全性 (computational secrecy)”